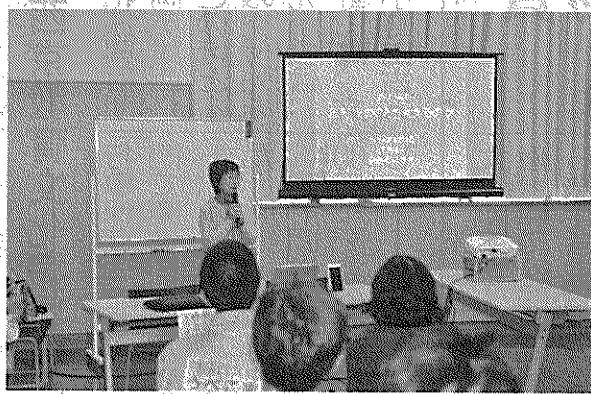


自転車も共存しよう



講演する三国さん(旧宇部銀行館)で

環境に優しい交通と持続可能なまちづくりについて情報交換しようとする「歩行者・自転車・車のフェアな道路空間の共存に向けて」のテーマで開いた。地元はもちろん福岡県北九州市から聴講に訪れた人もいた。

三国さんはドイツに環境学習に出掛けた際に日本と比べて自転車や車、歩行者がハード、ソフト両面から道路空間をつくすみ分けているのに接し、金沢市でも取り組むようになつたと。日本では環境、まちづくり、交通がそれなりに議論されがちだが、欧州ではそれらを総合的に考えていく。環境のために

第4回自転車まちづくりシンポジウムは8日、旧宇部銀行館(ヒストリア宇部)で約50人が参加してあり、自転車と車、人の共生やまちづくりについて考えた。うべ交通まちづくり市民会議主催。

総合的な欧洲をして、ントでシンボ

市)が「今なぜ自転車のことを考えるのか?」自転車とまちづくり金沢の事例から」と題してこれまでの活動を紹介した。

三国さんはドイツに環境学習に出掛けた際に日本と比べて自転車や車、歩行者がハード、ソフト両面から道路空間をつくすみ分けているのに接し、金沢市でも取り組むようになつたと。日本では環境、まちづくり、交通がそれなりに議論されがちだが、欧州ではそれらを総合的に考えていく。環境のために

自転車道を整備している側面がある」と指摘した。最初に取り組んだのが最も自転車を利用する機会が多い高校生を対象にした、市街地の道路を自転車で走行する際に危険、安全、快適を感じる道のアンケート調査。これを色分けして落とし込んだマップを作成した。

三国さんは「自動車に乗る機会が多い大人の視点でなく、交通弱者である子供たちの声を反映させた」とで実効性のあるものに仕上がった。それを契機に関係団体が参加するネットワークが発足し、国や県が道路整備に乗り出してくれた。いろんな討議の場が、そのまま自転車について学ぶ教育の場にもなつた」と振り返った。

こうした取り組みの結果、金沢市の自転車関連の事故率が確実に低下し、行政も協働でまちづくりに参画するよう各地で約したものを行政にぶつけると分かつてくれる」と経験談を話した。

引き続き「フェアな道路交通とは?」のテーマで参加者が自由に討議しながら、裏付けのあるデータ

(浅野)